

January 2023

だい 38 号

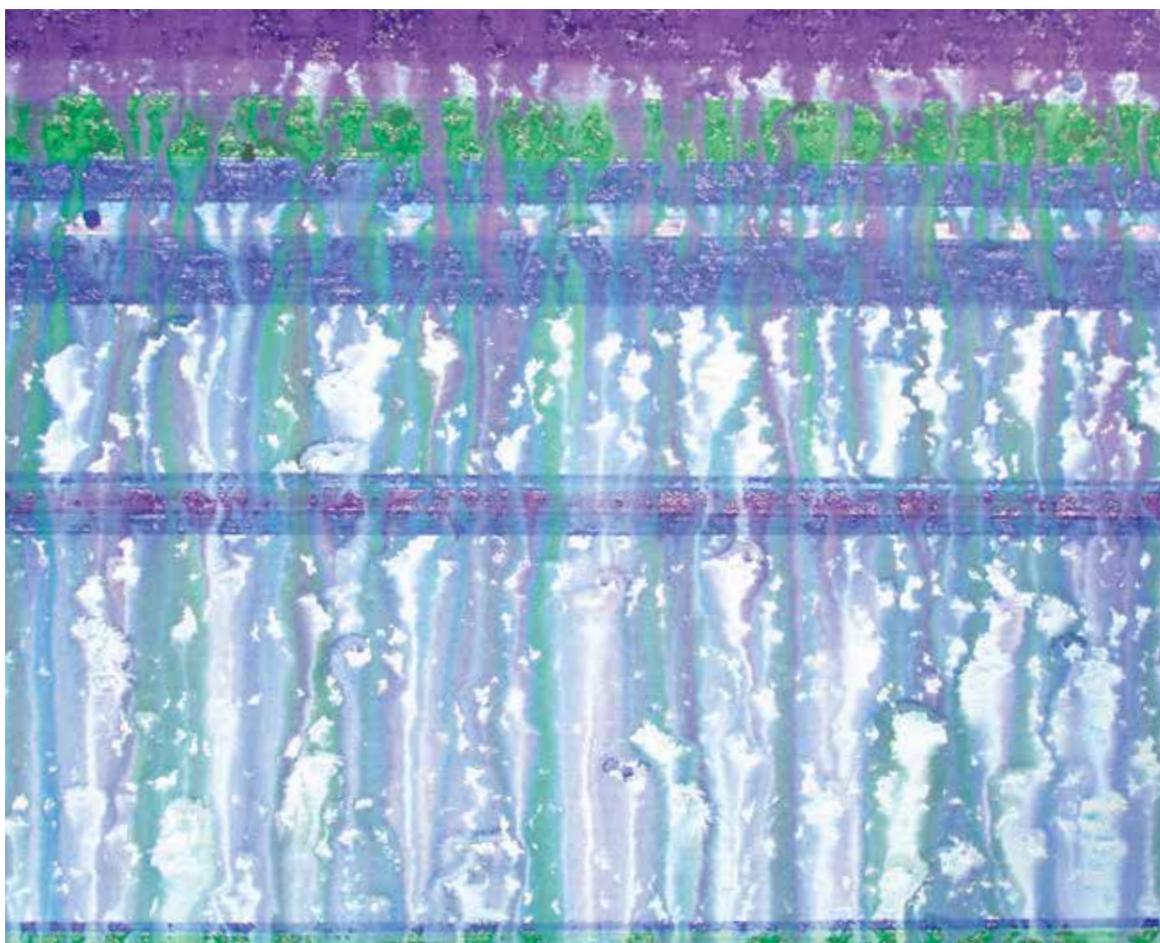
発行日 令和5年1月1日

発行責任者 吉岡 宏幸

ふれあい

社会福祉法人

北海道宏栄社



「表題：雨は流れる～緑」
画：高橋 一文

もくじ

- 年頭のあいさつ／新職員紹介 2 頁
- 60年のあゆみ～後編～ 3 頁
- 障害者スポーツ大会／北海道新聞社にプルタブを寄贈しました 4 頁
- ほほえみフェスタ／どさんこ楽フェス2022 5 頁
- コロナウイルスクラスターその後の取り組み 6 頁
- 行事食・月一会 7 頁
- 医務室だより／ナースコール設置 8 頁
- 業務改善表彰式／永年勤続表彰／人権擁護委員会訪問 9 頁
- 職員研修／ようこそ!!実習生 10 頁
- 寄贈／駐車場LED設置／表紙について／編集後記 11 頁
- 各施設のご案内／宏栄社の所在地／施設の利用状況 12 頁

ねんとう 年頭のあいさつ



りじちょう よしむら かつゆき
理事長 吉村 克之



みなさま 皆様におかれましては、きぼう 希望に満ちた新年を迎えられましたこととお慶び申し上げます。

さて昨年を振り返りますと、わが国では新型コロナウイルス感染拡大の数の波と、国際情勢による資材やエネルギー供給網の世界的混乱、さらには為替変動による円安などの影響を受けて、社会も経済も大きく揺れ動いた一年でありました。

この大波のなかで宏栄社も、8月には入所施設でクラスターが発生し、利用者さんご家族につらい思いをさせてしまい、誠に申し訳なく思っております。また今年度に計画していたグループホームも、土地は確保したものの資材費などの事情で建設を来年度に延期せざるを得ませんでした。これらのほか、入所利用者さんには高齢化や障害の重度化による介護面での支援量が大きく増えてきた一年でもあり、総じて苦闘の年であったと思っております。

それでも明るい要素も見えてきています。

まず工場のリネン類・寝具類の売上が、コロナ禍によるどん底を脱して最盛期の8割くらいまで回復してきました。職員に収支感覚が根付いてきて経費も以前より押さえられており、資材や重油の価格、観光客入込の動向などはなおお断を許しません、冬季の数字にも期待感を持っております。

また11月には支援体制をより手厚くするべく、生活支援課と相談支援事業所に合わせて4名の職員・パートを新たに配置することもできました。

工場の売上は利用者さんの工賃の原資であり、職員配置は利用者さんの支援の原動力ですので、この先に良い成果が現れてくるものと思っております。

時代と共に、障害者支援の事業所も市内に増えてきて、同じサービスでの競合も多くなってきました。地域の福祉環境としてはたいへん望ましいことですが、経営体としては選んでいただける事業所であるためのブラッシュアップが欠かせなくなったということでもあります。

こうした意識に立って、宏栄社では提供するサービスをより充実したものにしていいため、これからも日々研鑽を続けてまいります。

皆様には引き続き私どもの事業にご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます、年頭のご挨拶とさせていただきます。

しんしよくいんしょうかい 新職員紹介



よこはま ちえ
横浜 千恵さん

所属：生活支援課
好きな食べ物：海鮮料理
趣味：音楽鑑賞

11月より支援員として勤務しております。1日でも早く慣れて、笑顔で対応できることが今の目標です。よろしくお願ひします。



やぎ ひろみ
八木 啓美さん

所属：生活支援課
好きな食べ物：砂肝、餃子
趣味：Netflix 鑑賞

11月から支援員として勤務しております。精一杯頑張りますのでよろしくお願ひ致します。

ねん 60年のあゆみ ~ 後編 ~



前号では昭和37年に社会福祉法人としての設立認可がおりたところまで紹介しましたので、
今号ではクリーニング業務を開始した昭和38年以降を年表式で紹介します。

- 昭和38年 授産事業でクリーニング業務を開始。
- 昭和45年 現在地である天神町に新施設を建築。さらなる飛躍を目指す。
- 昭和58年 連続洗濯機システムの導入。～宏栄社の高度経済成長へ～
- 平成03年 身体障がい者と知的障がい者の混合利用制度開始。
- 平成06年 新工場の増築。クリーニング工場の本格的な整備を行う。
- 平成09年 通所サービス（宏栄セルフ）の運営開始。
- 平成14年 福祉ホーム工事竣工。初の全国障害者スポーツ大会参加。
- 平成15年 北海道宏栄社創立40周年記念誌発刊。ホームページを立ち上げる。
- 平成16年 広報誌創刊。（現在は年2回の発刊）
- 平成17年 青葉寮全館完成（全室個室）。利用者さんの職住分離が実現。
- 平成24年 北海道宏栄社創立50周年。
- 平成25年 相談支援事業（あおば）の運営開始。
- 平成28年 認定生活困窮者就労訓練事業の運営開始。
- 平成29年 経営改善会議を設置。経営課題検討のため、ワーキンググループを立ち上げる。
- 平成30年 北海道宏栄社基本理念制定。
- 令和02年 北海道宏栄社中長期経営計画の策定。
- 令和04年 北海道宏栄社創立60周年。

いかがでしたか。紆余曲折がありながらも、昨年北海道宏栄社は創立60周年を迎える事ができました。これからも邁進してまいりますので、よろしくお願い致します。



（紙面担当／表涼楓、松本宏樹）



しょうがいしゃ たいかい 障害者スポーツ大会



令和4年10月29日(土)～31日(月)に栃木県で行われた第22回全国障害者スポーツ大会に北海道選手団派遣選手として、長谷川雅紀さんがフライングディスク(アキュラシー、ディスタンス)、苫米地凌さんがSTT(サウンドテーブルテニス)の種目で参加し、苫米地凌さんが出場ブロックで3位、長谷川雅紀さんが2種目でどちらも惜しくも4位という結果になりました。今回は出場したお二人に大会の感想をインタビューしました。



はせがわまさのり
長谷川雅紀さん

今回は大会までにコロナとか練習場所の近くに熊が出てしまって、中々納得のいく練習が出来なかった。大会当日は投げる時に向かい風で思い通りにいかなくて難しかった。でも実りのある大会ではあったから、良かったかな。



とまべちりょう
苫米地凌さん

大会期間中に体調不良や怪我也なかったもので、最初の目標の無事に帰ってくることは達成できた。惜しい試合もあったけど勉強になることもたくさんあって成長できた大会でした。他の選手との交流もできて楽しかったです。

令和4年6月19日(日)に網走市で行われた第60回北海道障害者スポーツ大会に4名の利用者さんが参加し、結果は下記の通りとなりました。



ソフトボール投げ

高橋克史さん 1位

先山蓮さん 2位

1500m走

佐藤利樹さん 3位

本間一輝さん 3位



たかはしかつし
高橋克史さん



さきやまれん
先山蓮さん



さとうりき
佐藤利樹さん



ほんまかずき
本間一輝さん

ほっかいどうしんぶんしゃ きぞう 北海道新聞社にプルタブを寄贈しました



9月に入所利用者の堀江庸介さんと宏栄社内のプルタブを回収したところ、45リットルの袋4つ分のプルタブが集まりました。

その後プルタブの回収をしている北海道新聞さんへプルタブを寄贈し、「こんなにありがとうございます!」と、とても喜んでいただきました。

今後も引き続きプルタブを集め、社会に貢献できるよう努めたいと思います。

ほほえみフェスタ



令和4年12月8日(木)～9日(金)までの2日間、小樽
長崎屋2階にてほほえみフェスタが開催されました。

定番のウエスの他新たな商品の販売も行い、たくさんのお客様
に購入していただきました。

例年、利用者さんと一緒に販売を行っていましたが、今回は
感染対策として少人数で参加したため、職員のみでの販売でした。

参加したかったと話している利用者さんもいたため、来年は一緒に参加できればと思っています。

今回、出店するにあたり6月から利用者さんと牛乳パックや新聞紙を使用した椅子を作成しました。1つ
の椅子に牛乳パックが24個も使用されてます。新聞紙を破いて詰める製作ですが、とても頑丈に出来てい
て軽いためとても便利です。

もうひとつ、タイルを使用したコースターを作成しました。職員が作るよりも皆さん上手に配置しとても
良い商品が出来上がりました。

コースターは完売し、欲しかったのに買えなかった職員もいました。

どちらも制作時間はとても楽しく、次回に向けてまた作りたいなと思っています。



たの どさんこ楽フェス2022



令和4年11月11日(金)一般社団法人北海道知的障がい
福祉協会主催の「どさんこ楽フェス2022～オンラインだヨ!
全員集合!～」に参加しました。

身体を動かす活動(ヨガ)やマジックショー、お笑いライブに
打楽器演奏と盛りだくさんの内容となっていて、令和元年度の
クリスマス忘年会に来てくれたコロネケンさんのお笑いライブで
は、「前に来た人だ!」と喜ばれる方もいました。

コロナ禍でなかなか行事が行えない中、楽しい時間を過ごす
ことができました。

また機会がありましたら参加したいです。



(紙面担当/表涼楓、梶谷怜史、田邊行将)

コロナウイルスクラスター その後の取り組み



令和4年8月2日（火）に、北海道宏栄社入所施設にて、入所利用者さん9名が新型コロナウイルスに感染し、その後8月7日までに感染者が合計14名発生し、クラスター認定がされました。入所施設を隔離し、看護師指揮のもと、支援員全員で防護服を着用し、入所利用者さんの対応を行いました。利用者さんの協力もあり、8月7日以降の入所利用者さんの感染者が1名も発生しなかったため小樽市保健所からの許可により、8月27日（土）にクラスターは収束となりました。その間、重症化する利用者さんもおらず、後遺症が残った方もいなかったのは不幸中の幸いでした。



入所利用者さんの感染状況は

8月2日	9名	8月3日	1名	8月4日	1名
8月6日	2名	8月7日	1名	計14名でした。	



その後宏栄社では、寮内の喫煙所を一人ずつ利用するルールを定めたり、通所者の昼食の食事場を分ける等感染リスクが低下するように対策を講じております。また、食事を直前に配膳し、少しでも温かく食べていただく工夫を行っており、利用者さんからも好評です。



今後も宏栄社ではこの経験を基に職員一同さらに感染防止対策に取り組み皆様に安心して安全なサービスを提供できるように努めてまいります。引き続き、ご理解とご協力いただきますようよろしくお願い申し上げます。



ぎょうじしょく 行事食 & フェアメニュー



こくみん しゅくじつ きせつ あ わ せ た ぎょうじしょく
 ☆国民の祝日や季節に合わせた行事食、
 まいつきおこな きゅうしょくうんえい かいぎ えら
 毎月行う給食運営会議で選ばれるフェ
 アメニューなど毎月様々な工夫を凝らし、
 りょうしや よろこ
 利用者さんに喜んでもらえるようなメニ
 ューになっております♡



つきいちかい 月一会



まいつきさいしゅうすいようび ゆうしょく
 ☆毎月最終水曜日の夕食
 時に、「月一会」(月に1度、
 ゆうしょく プラス α
 でちょっと贅沢な気分を
 あじわっていたたごう会)を
 きかくしています。きせつ
 企画しています。季節のフ
 ルーツや小樽市内のケーキ
 や屋さんのケーキ、ステーキ
 などをつあつ ていきょう
 を熱々で提供するなど、
 まいつきいろいと く
 毎月色々取り組んでおりま
 す。とにかく利用者さんの
 えがお さいこう
 笑顔が最高です♡



(紙面担当/田邊行将、新野千佳子)



いむしつ 医務室だより



現在コロナ禍からの経済回復が急激に進んでいます。心配なのは第8波。

11月から増え始め12月にはピークを迎え、第7波のピークを越えるとも言われています。また第8波も主流はオミクロン BA. 5。インフルエンザの同時流行の可能性もあるようです。

このため医務室では、11月にインフルエンザワクチン接種、12月にコロナワクチン接種（5回目もしくは4回目）を実施致しました。



今回は感染対策の3大原則の一つである「感染しないような体力や抵抗力をつける」についてお話をします。



☆よく眠る

休息をしっかりとって疲れをためない

☆できるだけストレスのない生活を送る

☆規則正しい生活リズムを心がける

☆栄養バランスの良い食事を摂る

☆排便習慣を整える

☆喫煙や過度な飲酒をしない



寒さも本番です。体調を崩さないように共に元気に過ごしましょう。

ナースコール設置



今までは内線電話を各居室につけていましたが、緊急時に電話のボタンが押しづらいなどというお話もあったので、握るだけで呼び出しが可能なナースコールに取り替えました。

緊急時にナースコールを押すと、支援員の持っているPHSにすぐつながって呼ぶ事ができるようになりました。

どうしましたか？
すぐいきますね



ぎょうむかいぜんひょうしょうしき 業務改善表彰式



令和4年10月21日（金）に各部署・個人から提出された業務改善案の中から優秀なものを選び、表彰をする業務改善表彰式が行われました。

今年度はクリーニング工場で重なって収納されたカゴを引き抜く際に、カゴ同士が真空状態になるので引き抜くのが大変だというパート従業員さんの声をうけて従業員数名で知恵を出し合いカゴに金具を取り付け、隙間ができ女性でもカゴを引き抜きやすくした事と、就業規則などの規程をインターネット上で見られるようにしたという2つの業務改善案が表彰されました。

えいねんきんぞくしゃひょうしょう 永年勤続者表彰



管理部長 高田 栄一郎

色々な事にチャレンジした10年でした。皆様への感謝を忘れずに引き続き頑張ります。



営業2課係長 下村 祐介

色々と勉強させて頂いた5年でした。今後も感謝の気持ちをもって仕事に励みます。



生活支援課主任 笠原 悠希

振り返ると、いつの間にか5年が経過していました。初心を忘れず、日々の仕事を頑張っていきます。

じんけんようごいいんかいほうもん 人権擁護委員会訪問



令和4年10月27日（木）人権擁護委員会の方々5名が訪問されました。人権擁護委員の活動とは地域の皆さんから人権相談を受け、問題解決のサポートや法務局の職員と協力して人権侵害から救助する活動をしています。今回のお話で人権擁護について改めて痛感し、福祉職員として、一人の人間としてより一層気を引き締めて業務に励みたいと思いました。

熱意のこもった劇で人権擁護を教えてくださいました。ありがとうございました。

（紙面担当／伊藤拓也、表涼楓、照井菜愛、新野千佳子、松本宏樹）

しょくいんけんしゅう 職員研修

研修

かぶしきがいしゃよしおかけいえい 株式会社吉岡経営センターより こんどう ひでおし 近藤日出男氏を講師として お招きし、けんしゅう おこな 研修を行いました。

10月6日(木)「ハラスメント防止研修」



職場における「3大ハラスメント」(パワハラ、セクハラ、マタハラ)にポイントをおき、実際にあった事例を交えながら、職場におけるハラスメントが生む問題や対策の必要性などを勉強しました。

11月10日(木)「リーダー養成研修」



「人材確保」と「人材育成」のニーズが高くなり、対応が求められている中、福祉施設におけるリーダー像やリーダーに求められる3つの役割、行動などを勉強しました。

ようこそ!! 実習生



令和4年度は5名の学生さんが実習に来てくれました。

最初は不安や緊張がありましたが、全員最後まで集中して作業をすることができました。

振り返りでお話を伺ったところ、「楽しかったです」「難しかったです」「やったことがない事が経験できて自信が持てました」等たくさんの感想をいただきました。

今回の実習で学んだことを活かして、これからもいろんな所へ実習に行きました新しいことを学び、立派な社会人になってください。

皆さん、実習本当にお疲れ様でした!

実習に来られた学校の紹介です。

北海道札幌高等養護学校 2名

北海道札幌稲穂高等学校 2名

北海道高等聾学校 1名



きぞう 寄贈



日本中国料理協会小樽支部様より寄贈

寄贈いただいた方々をご紹介します。

- ・公益財団法人日本知的障害者協会様
防護服 200枚
- ・北海道コカ・コーラボトリング株式会社様
清涼飲料水 360本
- ・サントリービバレッジサービス株式会社様
清涼飲料水 192本
- ・日本中国料理協会小樽支部様 シューマイ 90個

ちゅうしゃじょう 駐車場LED設置



去年は駐車場に設置している電灯に集まる虫の数が特に多く、衛生面を考慮して10月にLED仕様の電灯に交換しました。

LEDの物だと通常の蛍光灯と比べると紫外線の量が少ないようなので、その紫外線に引かれる虫が寄り付きにくくなるみたいですね！

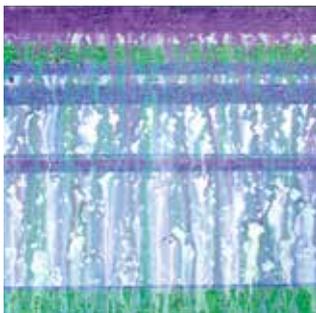


ひょうし 表紙について



【作品紹介】

水彩色鉛筆を塗った画用紙を本当の雨でじませ、傾けて流しました。雨の流れを楽しんでください。



表題：雨は流れる～緑



高橋 一文 さん

【作者紹介】

- 小樽市出身
- 現在宏栄セルフを利用中
- ・2018年第72回市展「教育長賞」
- ・2019年第73回市展「市長賞」
- ・2019年第94回道展「新人賞」
- ・2021年北海道現代アート展参加
- ・2022年第75回市展に委員として参加

へんしゅうこうき 編集後記



新年あけましておめでとうございます。広報誌の編集時期は、ワールドカップで盛り上がっていました。日本の活躍、すごかったですね。

スポーツといえば、去年は全国障がい者スポーツ大会が久しぶりに開催され、当法人からも数名の利用者さんが参加し、活躍した様子を掲載することができました。何年か連続して中止になっていたのが、大変嬉しいニュースです。

これからも利用者さんの明るい話題を掲載できるよう、編集委員一同、頑張っています。広報誌38号をお楽しみ下さい。

(紙面担当／伊藤拓也、表涼楓、田邊行将、中村徹斗)

各施設のご案内



社会福祉法人
〒047-0011

北海道宏栄社
小樽市天神2丁目8番2号



電話代表 0134-25-1551 FAX 0134-29-3284

営業直通 0134-31-5625 FAX 0134-33-3178

ホームページ <http://www.koueisyua.or.jp/> メールアドレス selp@koueisyua.or.jp

(営業時間) ■平日 8:40~17:00 ■土曜 8:40~14:50 (定休日) 日曜、元日

障害者支援施設

北海道宏栄社

障がいのある方に、施設入所支援を提供しながら、日中活動の場として生活介護事業を提供する施設です。

●施設入所支援事業

快適な寮生活を提供します。施設内はバリアフリーで居室はすべて個室です。入浴や食事も提供します。

●生活介護事業

日常生活上の支援、創作的活動や生産活動の機会を提供し、身体機能や生活能力の向上のための支援を行います。

相談支援事業所 あおば

障がいのある方の生活上の困りごとや障がいについての質問、福祉サービスの利用について相談を受ける事業所です。

●一般相談支援事業

施設や病院を出て、地域で暮らすための地域移行支援・地域定着支援を行ってまいります。

●特定相談支援事業

障がいのある方や児童に対して、障害福祉サービスを利用するためのサービス計画の作成や、一定期間ごとに評価（検証）を行い、サービス計画の見直しを行っています。

●障害児相談支援事業

TEL 0134-27-4722 FAX 0134-33-1131

メールアドレス aoba@koueisyua.or.jp

障害福祉サービス事業

宏栄セルブ

障がいのある方に、自宅などから通っていただき、就労に向けてのサービスを提供する施設です。

●就労移行支援事業

一般の会社に就労を希望する方に、おおよそ2年間、施設内での作業訓練や事業所での実習を行うサービスです。

●就労継続支援A型事業

障がい理由で一般就労が困難な方に、施設との雇用契約に基づく就労支援を提供するサービスです。

●就労継続支援B型事業

一般就労が困難な方に雇用契約は結ばず、自分の希望や体調に合わせた就労支援を提供するサービスです。

●生活困窮者就労訓練事業

就労に困難を抱えた方に状況に応じた就労の機会を提供し、生活面や健康面での支援を行います。

福祉ホーム

宏栄社福祉ホーム

(居室数14室)

障がいのある方にバリアフリー対応の居室を提供します。Aタイプ(42.24㎡)とBタイプ(28.8㎡)があります。

TEL 0134-24-7551

北海道宏栄社の所在地



施設の利用状況

(令和4年12月1日現在)

区分	定員	利用者数		
		男性	女性	合計
北海道宏栄社(入所)	54	41	10	51
生活介護				
宏栄セルブ(通所)	10	1	2	3
就労移行支援	10	8	0	8
就労継続支援A型				
就労継続支援B型		40	36	11

区分	居室数	利用中	空室
宏栄社福祉ホーム Aタイプ	6室(12名)	6室	0室
Bタイプ	8室(8名)	7室	1室

※各施設をご利用希望の方は、お問い合わせください。

(印刷 協力)日東印刷株式会社